

「遺骨土砂使用は人道上の過ち」

收集ボランティア 厚労省に撤回働きかけ要望

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設に沖縄戦犠牲者の遺骨がある地域の土砂を使用する國の計画に反対する、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の眞志堅隆松さんは19日、厚生労働省に計画反対を表明し内閣に撤回を働きかけることなどを求めた要望書を提出しました。

計画では同新基地建設の埋め立て用の土砂を、沖縄戦の激戦地で、現在も多くの遺骨が未発掘の沖縄本島南部から大量採取する予定。遺骨を含む土砂が、埋め立てに使われる可能性があります。会見で眞志堅さんは、実際の土砂を手に

し、遺骨を収容した後の土砂からも細かい遺骨が取り切れずに残っていることを説明。

「防衛省に現場視察を要望しても、土砂に戦没者の遺骨があることの認識を問うても、答えず反論もない」と告げました。

東京都荒川区の小谷野浩さん（80）の父親（当時34歳）は沖縄戦で戦死しました。小谷さんは「計画の强行は人道上の過ちを犯しており遺族や戦没者への裏切りだ。計画の撤回を要求していきたい」と訴えました。

会見では、遺骨を含む土砂を使用しないよう求める意見書が全国134自治体で可決されたことを発表しました。要望書は、海没戦艦などの遺骨調査や遺骨未収容遺族のDNA鑑定の申請を受理することも求めています。